

インターネットや携帯電話の使い方 について、本で調べてみよう

高等部1年 専門情報
「考えよう情報モラル②」
資料の活用

ねらい

- 情報モラルについて理解を深める。
- インターネットや携帯電話の危険性について理解し、安全な使い方を心がける。
- 他の人の意見を聴くこと、自分の意見を言うことの大切さを知る。

学 習 展 開

- ① 活動の流れや目標を理解し、ワークシートの記入や話し合い、発表の方法を確認する。
- ② インターネットや携帯電話を使う時に気をつけることや便利なところを、図書室の本で調べる（1人が1冊を選び、その中から題材をひとつ選んで、紹介する）。
- ③ 調べて分かったことを、ワークシートにまとめる。
- ④ まとめたことについてグループで話し合い、意見をまとめる。
- ⑤ グループの中で順番を決め、1人ずつ発表し、他の生徒は授業者が板書したグループの意見を記録する。



グループでの話し合いと調べ学習

◆司書教諭と学校司書の関わり

- 授業者は学校司書に学習内容を伝え、学校司書が情報モラルの関連書籍を学校図書館や県立図書館の蔵書から選定し、専用の書庫に準備する。
- 指導者（2～3名）は学校司書とTTで、生徒に題材の選定やワークシートへのまとめ方について助言する。
- 司書教諭は発表の様子を写真撮影し、ホームページに掲載する。

★指導のポイント

- ◆生徒がそれぞれ選んだ題材を話し合い、まとめた意見を検討し、インターネットや携帯電話には利便性と危険性の両面があることに着目する。
- ◆ワークシートには生徒が選定した書籍名や掲載ページを記述する欄を設け、発表時に書籍や掲載ページを紹介することで、見ている生徒が他の書籍に関心を持つきっかけとなるようにする。
- ◆生徒の発表を授業者が簡潔にまとめて板書し、他の生徒がそれを記録することでどんな題材の発表があったかを確認できるようにする。

資料

「気をつけよう！情報モラル」（汐文社）、「スマホ パソコン SNS よく知ってネットを使おう！」（講談社）、「池上彰さんと学ぶ みんなのメディアリテラシー」（学研）、「本当に怖いスマホの話」（金の星社）
「小中学生のための世界一わかりやすいメディアリテラシー」（宝島社） 他